

トピックス…②

シンポジウム「酪農教育ファーム20年を節目に～酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ～」開催

本会議は、9月22日、活動を始めて20周年を迎えた酪農教育ファーム活動の記念シンポジウム、「酪農教育ファーム20年を節目に～酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ～」を、TKPガーデンシティPREMIUM京橋で開催した。

本稿では、シンポジウムで行われた、酪農教育ファームにおける3事例の活動成果報告「実践発表」と酪農教育ファームに関係者による「パネルディスカッション」について、その概要を紹介する。



【満員の会場】

1. 実践発表の概要

(1) 実践発表①「関東におけるわくわくモーモースクールのあゆみ」

亀田 康好氏（埼玉県・シンボライズファーム／酪農教育ファームファシリテーター）による、わくわくモーモースクールでの成果報告が行われた。

(2) 実践発表②「私と酪農教育」

大藪 真裕美氏（熊本県・オオヤブデイリーファーム／酪農教育ファームファシリテーター）と藤田 まり子氏（熊本市立力合小学校校長）により、酪農家と教育関係者が連携して取り組む酪農教育ファーム活動についての発表が行われた。

(3) 実践発表③「農業高校における酪農教育ファーム活動の取組み」

田中 怜氏（大阪府立農芸高等学校教諭／酪農教育ファームファシリテーター）と小西 さくら氏（大阪府立農芸高等学校3年生）により、活動の成果報告が行われた。



【田中 怜氏、小西 さくら氏による実践発表】

2. パネルディスカッションの概要

シンポジウム後半は酪農教育ファーム活動に携わってきた実践者や関係者によるパネルディスカッション「酪農教育ファームの未来のあり方」が行われた。

モデレーターは松原 明子氏（酪農教育ファームアドバイザー／(有)オフィスラ・ポート取締役）。パネラーの、廣瀬 文彦氏（北海道・広瀬牧場／酪農教育ファームファシリテーター）、清水 一将氏（愛知県・清水牧場／酪農教育ファームファシリテーター）、横山 弘美氏（練馬区立大泉南小学校・主幹教諭）、小谷 あゆみ氏（農業ジャーナリスト）、姫田 尚氏（(公社)中央畜産会・副会長）、渋谷 一典氏（文部科学省 初等中等教育局教育課程課教科調査官／国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官）の7名により、ディスカッションが行われた。

ディスカッションは3つの議題、「これまでの酪農教育ファームが果たしてきた役割」、「酪農教育ファームの今抱える課題」、「酪農教育ファームの未来の在り方」で構成され、パネラー自身の経験やこれまでの経験談を踏まえて、酪農教育ファームの価値と役割を確認した。



【パネルディスカッションの様子】

3. 総括（講評）の概要

シンポジウムの最後には、國分 重隆氏（日本酪農教育ファーム研究会 会長／東京都教育庁指導部教育開発課東京教師養成塾 教授）による総括が行われた。

総括では、20年の酪農教育ファーム活動で得た3つの成果と活動を未来につなぐための目標が挙げられた。3つの成果は、「酪農と教育が結び付く、世界に誇れる組織的な取組が確固たるものになったこと」、「体験のノウハウが蓄えられて、その質がより充実したこと」、「行われたシンポジウムでの学びそのもの」とまとめられた。未来につなぐための目標は、「新たな世代や酪農以外の業種も巻き込み、活動の幅を広げること」と総括した。